北海道地理
No.81（2006.7）

登別温泉観光集落における土地利用の変化

The Change in the Land Use in Noboribetsu Spa Area, Hokkaido

妻鹿奈緒美*・橋本　雄一**
Naomi MEGA* and Yuichi HASHIMOTO**

キーワード：観光集落，登別温泉，土地利用，宿泊施設
Key words：sightseeing settlement, Noboribetsu spa, land use, hotel

Ⅰ．はじめに

日本における観光地理学の分野では個別観光地の形成や機能などを分析した事例研究が数多くなされており，これらの積み重ねによって，観光地の一般的傾向の把握が進められてきた。北海道の代表的な温泉観光地である登別温泉に関しても多くの研究が行われており，近年では割石・酒井（1994）や酒井（2001）が，宿泊施設や土地利用の変化から温泉集落の形成過程と集落構造を分析している。

本研究では，上記論文と同様の視点で，2004年における土地利用を状況を把握し，それを既存資料と比較することで登別温泉観光集落の変化を明らかにする。その際，特に割石・酒井（1994）が調査を行った1990年代前半からの変化に注目する。そのために，まず登別温泉における宿泊施設の開業年次や規模を概観する。次に，登別温泉の2004年次点の土地利用図を作成し，これを，第一滝本館資料から作成した1955年の土地利用図や，割石・酒井（1994）に掲載されている1993年の土地利用図と比較することで，2004年までの温泉観光集落の変化を明らかにする。

研究対象地域の登別温泉（図1）は，札幌から車で約1時間45分，千歳からは約1時間15分の場所にあり，山に囲まれた細長い集落で，中央にクスリサンベツ川が流れている。泉質は11種類と多く，付近にはカルルス温泉，新登別温泉といった温泉も存在する。当温泉は北海道では歴史が古く，1858年開基と言われ，登別・登別温泉間の道路や交通機関の発達に伴い旅館・商店等が増加してきた。1936年，40年，43年，46年と立て続けに温泉療養を目的とした病院，療養所が作られたことで，温泉地としての発達した。その後，1949年に支笏・洞爺国立公園の指定を受け，1958年にクマ牧場を造成し，1964年から登別地獄祭りを行うなど，観光地としての整備が進められた。1990年には登別駅付近に登別マリンパークが，92年には中登別に登別伊達時代村がオープンしている。

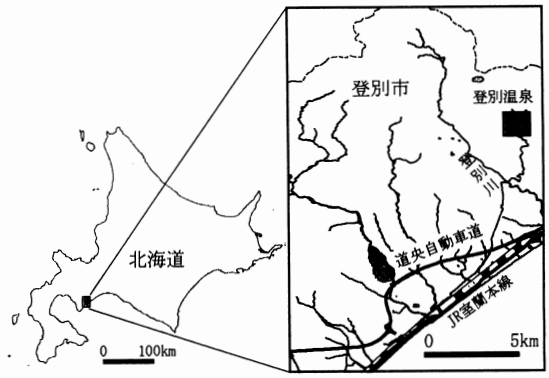

図1　登別温泉集落の位置

* 積水ハウス株式会社
* Sekisui House Co., Ltd.
**北海道大学大学院文学研究科
**Graduate School of Letters, Hokkaido University

II．登別温泉の宿泊施設の推移

まず，登別温泉集落における宿泊施設の推移をみる。図2は，登別温泉における形態別の宿泊施設数の推移を，図3は宿泊施設の収容能力と客室稼働率を表している。ホテル･旅館は1970年，71年に最も多く22軒あり，その後小さな増減を繰り返して，全体では減少傾向にあった。特に1993～94年の間に4軒のホテル・旅館が廃業し，現在は15軒となっている。廃業した4軒の収容人数の合計は474名で，比較的小規模であった。寮・保養所は1980年代後半から徐々に減少し，2003年に2軒が廃業したことで，現在はみられなくなった。民宿は，1975年に3軒が存在していたが，1995年には0軒となっている[1]。Y・Hは1965年以降3軒が営業していたが，1993年に1軒，2002年に1軒廃業し，現在は1軒のみとなっている。宿泊施設全体は1970年，71年，77年，78年の30軒がピークでその後は減少傾向にあり，現在は16軒となっている。しかし収容能力は1992年に1,281名，1996年に1,222名の増加があり，記録の残っている1971年と比較すると2,647名増加している。これは，登別温泉において宿泊施設の規模が

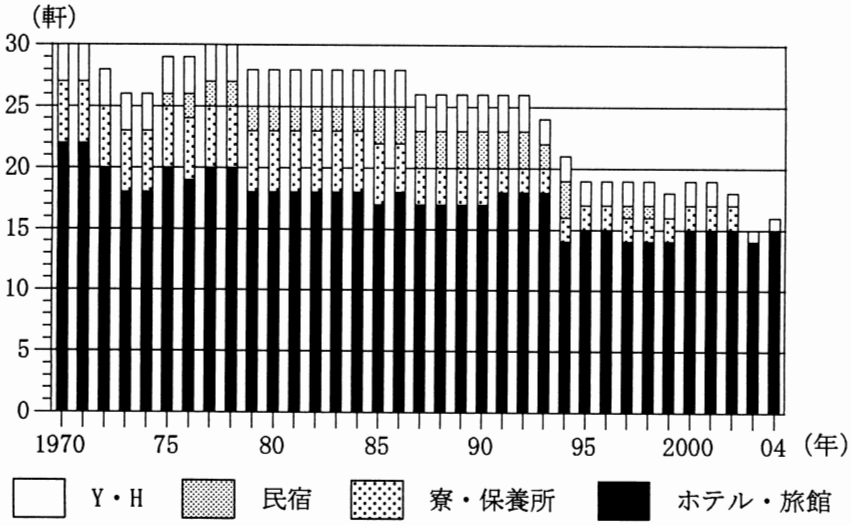

図2　登別温泉における種類別宿泊施設の変化
登別温泉協会資料により作成。

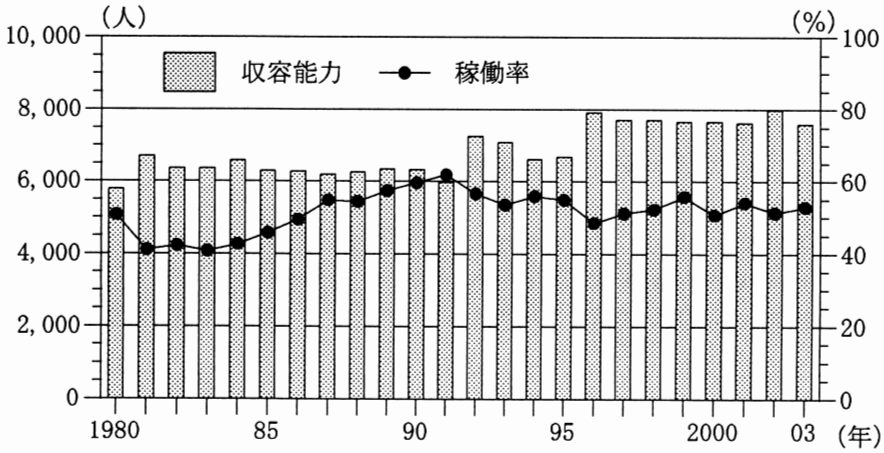

図3　登別温泉における宿泊施設収容能力と稼働率の変化
登別温泉協会資料により作成。

大型化したことによる。

2004年現在のホテル・旅館の収容人員は，99人以下が3軒，100～199人が3軒，200～499人が3軒，500～999人が3軒，1,000～1,500人が3軒となっている(図4)。分布に関しては，開業年次による偏りは見られない。これは，登別温泉町は山に囲まれた土地で地形的な制限を受けるために，ある程度の拡大が起こると，それ以上ほとんど集落は拡大せず，空き家や宿泊施設，病院の跡地などを利用して新たな宿泊施設が建設されたことによる。しかし年代によって，ある程度の規模の違いがみられる。戦前からある第一滝本館や登別グランドホテルは数回の増改築を行っているため収容人員が大きく[2]，その後に建設された宿泊施設は中規模のものが多い。そして高度経済成長期以後の観光需要の増大に合わせるように規模の大きい宿泊施設が建設され，旅行の形態が団体旅行から個人旅行にシフトしてきた最近に建てられた宿泊施設は比較的小規模である。図5は登別温泉における各宿泊施設の部屋数と部屋のタイプを示し

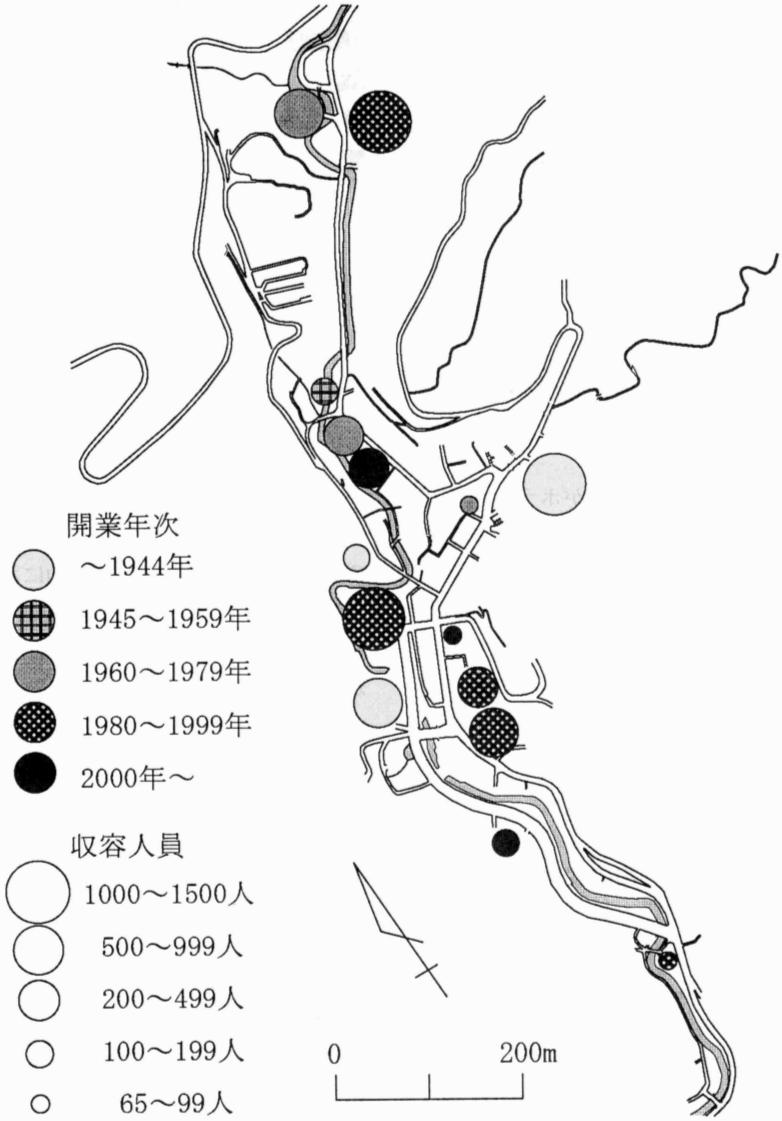

図4　登別温泉における宿泊施設の開業年次と収容人員（2004年）
登別温泉協会資料により作成。

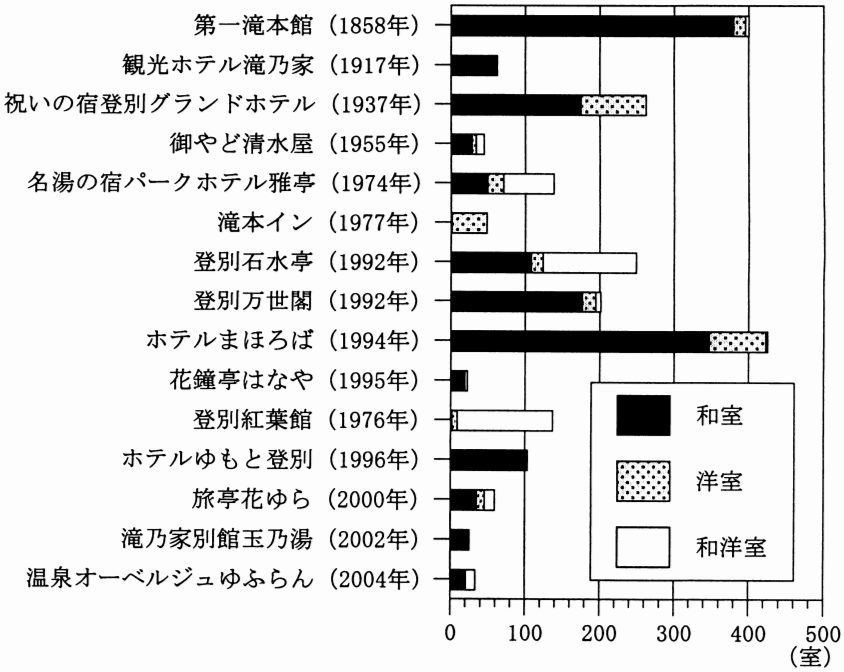

図5　登別温泉における宿泊施設の開業年次と種類別客室数
登別温泉協会資料により作成。括弧は開業年次。

ている。登別温泉には400室前後の非常に規模の大きい宿泊施設が2軒あり，部屋のタイプをみると全体的に和室が多い傾向にある。

以上のように，宿泊施設の形態がホテル・旅館に集約され，登別温泉全体としては収容人員数を増やし規模が拡大してきたことがわかった。そして，1990年代前半までは規模の大きな宿泊施設が建てられていたが，それ以後は比較的小さなものが建てられるようになり，現代では様々な規模の宿泊施設が立地しており，それぞれがハード面の整備を行い顧客ニーズに対応したサービスを充実させようとしていることがわかった[3]。

III. 登別温泉における土地利用の変化

第II章では宿泊施設の変化を見てきたが，ここでは集落全体の土地利用変化をみる。第一滝本館の資料から作成した1955年の登別温泉地区集落の土地利用図（図6）や，割石・酒井（1994）による1993年の土地利用図と，図7に示した2004年6月の土地利用図とを比較すると，宿泊施設は減少しているが，建物が廃墟として放置されたままのところと駐車場に転用されているところがある。また生活雑貨を売っていた商店や住宅であったところも駐車場に変わっており，駐車場の増加が目立つ。登別温泉集落は山に囲まれた地形のため，これ以上の平面的な拡大は難しい。そこで，モータリゼーションの進展に対応するため空き家や空き地を駐車場として有効に利用している。

1993年には宿泊施設や土産品店周辺に，登別温泉で働く者のための寮や社宅があったが，これらが2004年にはなくなっており，登別温泉町の常住人口も1980年の1,976人から2003年の903人へと減少している[4]。これは，宿泊施設への聞き取り調査から，観光産業に従事する者の中に温泉街に住まないで自動車通勤する人が増えたことや，宿泊施設や土産店が経営の合理化のため登別市街地や室蘭市などの近隣からパートやアルバイトを募集して正社員の雇用を減らしたことが原因となっていることがわかった。この常住人口の減少により，生活雑貨を売る商店などは成り立たなくなり，さらに病院も統廃合されたことで，登別温泉は現在のように観光産業に特化した集落となったと考えられる。

図6　1955年における登別温泉集落中心部の土地利用
第一滝本館資料により作成。

Ⅳ．おわりに

本研究では，土地利用から登別温泉観光集落の変化を明らかにし，特に，1990年代前半以降における変化を中心とした考察を行った。その結果，登別温泉は規模の拡大を重ねることによって団体客を対象とした宿泊施設が建ち並ぶ温泉集落となったが，近年，観光客の旅行形態が団体から個人・小規模グループにシフトしていることにあわせて，様々な規模の宿泊施設が立地するようになり，規模に応じたサービスの拡充に力を注ぐようになっていることがわかった。そして，温泉集落に常住していた観光産業従事者が減少したことで，生活雑貨を売る商店や病院等の非基幹産業は衰退し，登別温泉集落は観光機能に特化するようになったことがわかった。

謝辞

本研究を行うにあたり，登別観光協会，第一滝本館，登別石水亭，登別グランドホテル，登別万世閣，登別温泉株式会社の皆様からは貴重な資料をいただきました。また，北海道大学文学部4年の清水伊織氏には土地利用調査にご協力いただきました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

注

1）1997年，98年に1軒の民宿があるが，これはホテルが民宿へ形態を変えて営業していたものでこの2年間のみで廃業している。

2）第一滝本館や登別グランドホテルでの聞き取りによると，両宿泊施設とも数回の増改築を行っている。1952年当時，第一滝本館は木造3～4階建てで，その他に第一新館，第二新館などがあった。その後，第一滝本館では1966年に東館，1971年に西館，1978年に南館，1990年に本館を建設している。登別グランドホテルは，1956年に東新館竣工，1957年に西新館竣工，1963年に南新館竣工，1976年に南新館竣工，1976年に洋新館竣工と規模を拡大している。

3）2004年6月に行った宿泊施設への聞き取り調査による。

4）登別温泉町の常住人口は登別温泉観光協会資料による。

参考文献

酒井多加志(2001)：療養保養温泉地から国際観光温泉地へ—登別温泉．平岡昭利編『北海道　地図で読む百年』古今書院，81-84.

割石敏明，酒井多加志(1994)：登別温泉の形成過程と集落形成．北海道地理，**68**，35-40.

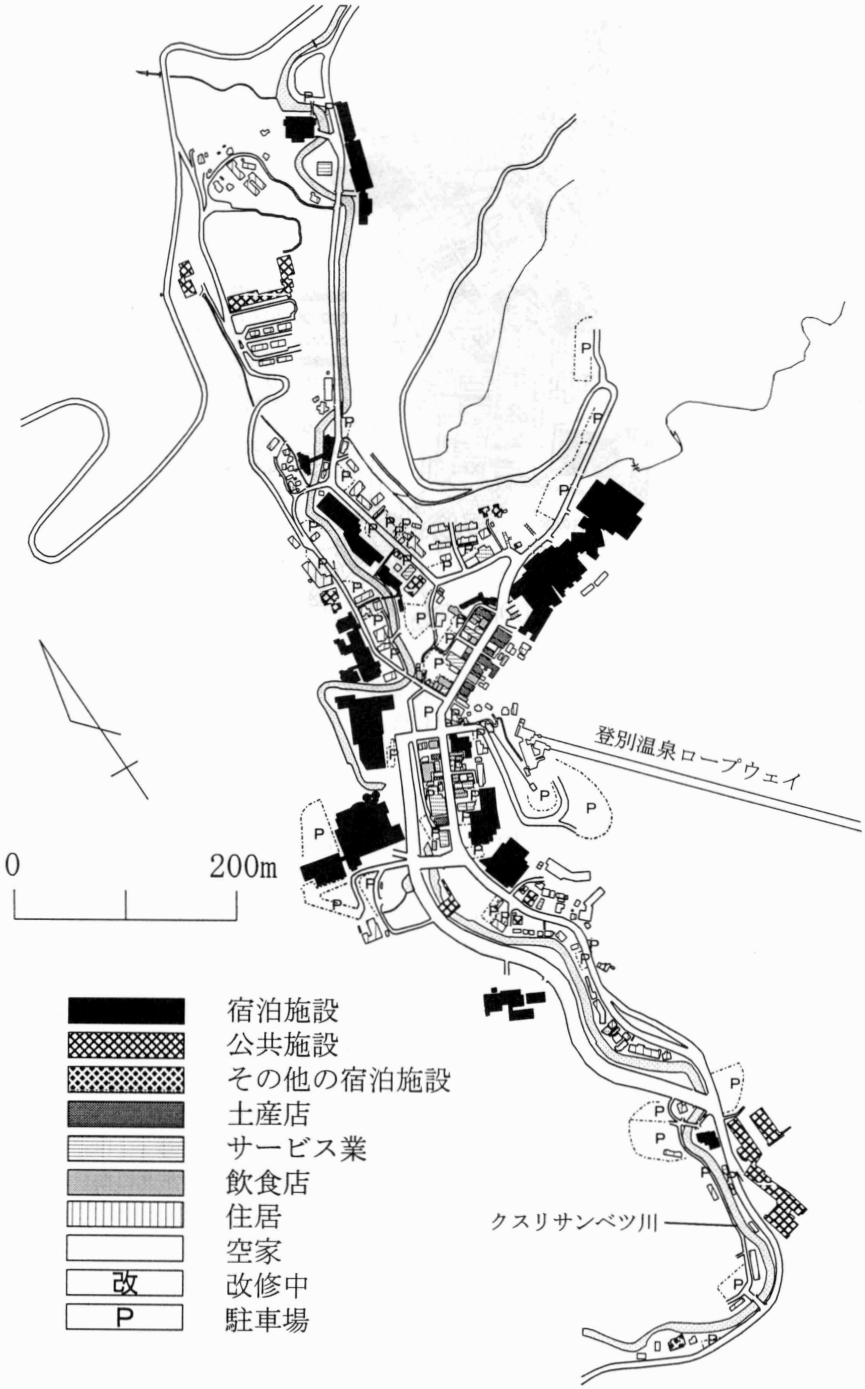

図7　2004年における登別温泉集落の土地利用
2004年6月現地調査により作成。